

かがやきながの ニュース

平和への願いを胸に、平和大行進参加



過去に戦争の体験をされた方々は少なくなっしまいました。でも、この経験こそが現在の平和の礎となっています。時の流れは時として苦しみや悲しみを忘れさせてくれます。しかし、過去の悲惨な戦争、被爆という体験は決して忘れ去られることなく引き継がれなくてはなりません。平和を守り、核なき世界の実現のために挑戦しつづけると心に誓い暑い夏を歩きました。

本部・北信地域センター

長野県長野市南長池 761-3
(本部) TEL 026-263-2386
(北信) TEL 026-217-3601

中信地域センター

松本市本庄 2-3-18
TEL 0263-50-8439

東信地域センター

佐久市下越 612-1
TEL 0267-78-5070

南信地域センター

飯田市知久町 4丁目 1203-2
高田ビル 2階
TEL 0265-23-1109

—おたがいさまを紡いで22年—

コープながの 暮らしの助け合いの会 佐久あじさいを尋ねて 第1回

6月の爽やかな日差しの中、コープながの「暮らしの助け合いの会 佐久あじさい」の推進委員さんが集まる会におじゃまし、お話を聞かせていただきました。

この日集まっていたいたのは、会の運営を担う7人の推進委員さん。設立当時から会の運営に携わる方が多く、当時の思い出や、皆さんの思いをお聞きすることが出来ました。これらを3回に渡る連載として皆さんにお伝えして行きます。初回の今回は、「暮らしの助け合いの会」の仕組みから。

コープながの「暮らしの助け合いの会」は生活協同組合コープながのの組合員が「おたがいさま」の心で助け合って家事援助活動を行う有償ボランティアの会です。コープながのの組合員であれば、誰でも会員になることができます。

会員には活動会員（援助活動を行う人）、利用会員（援助を受ける人）、賛同会員（会の趣旨に賛同する人）があり、全ての人が年会費2,000円を抛出し、会の運営を支えています。活動・利用・賛同の各会員は固定ではなく、困り事があれば利用会員に、利用されていた方が活動会員になることもあり、まさに支えたり、支えられたり、関係となっています。

援助活動は以下の手順で進められます。利用したい方はコーディネーター（佐久あじさいでは6名）に援助依頼を行います。コーディネーターはお宅に訪問し援助内容や援助日を確認します。その後、コーディネーターは活動会員の中から最適なた方に援助活動を依頼し、活動会員が援助に入ります。コーディネーターは援助を受けたい人と、活動する人との調整役と良き相談相手となります。（介護保険の訪問介護というサービス提供責任者の様な役割です）

援助活動は身体介護等の専門的な技術が必要な援助や車に乗せての移動等はいりませんが、家事援助（そうじ・洗濯・食事づくり・買物・窓拭き）、子どもや高齢者の見守り・話し相手、産前・産後の家事援助、外出支援（通院のつきそい・子どもの送り迎え・買物の同行）、庭の水やり、草取り、ペットの世話、ゴミ出し、葉の受け取り、電球の交換など…多岐に渡っています。最近ではデイサービスの送り出しや留守宅の見回り・郵便物管理、入退院の手伝い、年賀状印刷、家具の移動などの依頼もあるそうです。

利用料金は1時間700円（うち100円は運営協力費として会へ）、に援助会員の交通費が別途かかります。

「佐久あじさい」は活動会員132名、利用会員217名、賛同会員78名、合計427名の会員さんで、昨年一年間の活動時間は6,363時間でした。月平均530時間を越える活動を行っています。まさに佐久の地域でなくてはならない存在となっています。

文責：新井厚美



長野市いきいきサークル
(長野市生きがいデイサービス)の
「花のれん」

利用者さんの合同作品です。力を合わせて作りました。憩の家で展示中。風に揺れるととてもきれいです。



第18回 通常総代会が開催!!

第18回通常総代会が6月25日(土)長野市篠ノ井JAグリーン長野で、実出席75名、書面議決書19名、代理出席15名の計109名の参加で開催されました。

冒頭、オープニングセレモニーで日本国憲法前文の朗読を行った後議事に入りました。最初に市川英彦理事長より高齢協設立20周年を迎えるにあたり、設立当時の状況や設立宣言に込めた思い、そして4つの「心」(①共感：他者と喜びも悲しみも一つに出来る心。②配慮：他者の立場に立つての深い心くばり。③誠実：他者を信じて決して嘘をつかない。④尽力：他者の為に心を込めて尽くし、それを自分の喜びと出来る心。)を守って助け合って進もうと呼びかけられました。

続いて、2015年度事業活動報告と決算、剰余金処分案、2016年度事業計画並びに収支予算等について新井厚美専務理事より提案されました。(2016年度方針の骨子については次ページに記載しました。)また、会計監査報告を工藤克征監事から報告がありました。

会場からの発言は、東信理事渡辺一信さんより「新たに始まった佐久市の新地域総合事業の現状と課題について」、北信総代今井裕道さんより「老人憩の家の利用者と共に歩んで」、北信総代前島章良さんより「つなぎマップ作成の取組みについて」、中信総代大久保萬里さんから「デイサービス晴の家での地域の方々との取組みについて」、東信総代尾花隆さんから「佐久味工房米ちゃん弁当の安否確認を含めた活動について」、中信総代代田登さんから「おぼけ荘閉館に伴う利用者と共にあった活動について」の発言が行われました。また、北信総代出河久男さんから「単に事業所だけで考えるのではなく、つなぎマップの活用も含めて、高齢協全体で地域の困り事に対応していくべきである」という意見が出されました。中信総代小泉紀代子さんからは「高齢になってからの住み替えについて」質問がされました。東信理事依田発夫さんからは「憲法改正、戦争が出来る国づくり、社会保障の後退が進む中、私たちの声を大きくし、生活者の視点での政治の実現にむけて声をあげよう。」と地域での勝手連の取組みも含めて発言されました。最後に新井厚美専務より「地域の困り事に対して、私たち一人ひとりが何



挨拶をする市川理事長

が出来ていくかを考えながら、進めて行きましょう。」とまとめを行いました。

その後、採決に移り、全ての議案が満場一致で可決されました。「住民主体の地域包括ネットワーク創りを進めよう」の総代会特別決議の採択後、2名の永年勤続者表彰(北信：高橋節子さん、中信：西川麗子さん)を行い、「高齢者生協の愛称」を決定し、閉会しました。



オープニングセレモニーで日本国憲法前文を全員で朗読しました

長野高齢協の愛称が決定しました。「かがやきながの」

応募総数330通。理事会での一次選考を経て、総代会での総代による投票の結果、「かがやきながの」に決定しました。(次点、「ふくし生協ながの」)

「かがやきながの」を応募して頂いたのは、長野市にお住まいの河瀬幸三郎さんです。おめでとうございます。賞品のクオカード1万円分をお送りいたします。



読者からの投稿

読者の皆さまからの投稿を一部紹介します。沢山の投稿ありがとうございます。

◆2日後に白内障の手術を受けますが入院経験はお産の時以来です。たった1泊ですが不安です。約1ヶ月後に古稀になります。これからいろいろな身体の不都合が出て来ると思います。立ち向かっています。(Sさん)

◆急に暑くなってきましたがたまに肌寒く感じる事もあり。長ソデを完全に仕舞えずにいます。6/1になったら徹底的に衣替えと整理を行います。(Iさん)

◆核兵器のない平和な世界！絶対戦争をしない日本を、戦争を知らない若い人達に自覚してもらいたい。みんなで作り上げてゆきたい。(ペンネーム K・Hさん)

◆気持ちのいい季節です。前向きに頑張るって生活したいです。いつも楽しみに読んでいます。(Mさん)

◆四季のベンチのクラブ活動「百人一首」に参加しました。1日に4句の心情の説明がありました。受験時代と違い男性と女性の恋心を改めて鑑賞しました。生涯学習、一句でも多く覚えようと思います。終わりがくろいサービスの利用者さんの参加もあり、いつまでも学習意欲のある人々に頭が下がりました。(S・J)

◆心配ごと・気になり始めたこと最近の事は、人の名前が時々わからず、真面目にうその名前を言い、話をする。又、思い違い(?)15分位の会社までの用事に同名会社(安曇野市)まで車を走らせ心配になって来ました。(Sさん)

◆5月に新組合員になりました。皆さんとても優しい笑顔があり元気をもらえる。そして私も元気を与えられるようになりたいと思います。(M・Kさん)

★ペンネームでの投稿もお待ちしています。

かがやきインフォメーション② 受講生募集!!

公共職業訓練、介護福祉ステップアップ科訓練生募集

介護の資格を目指すなら、『介護職員実務者研修』から、始めましょう!

訓練日程：平成28年8月26日(金)～平成29年2月27日(月)

訓練場所：長野県高齢協研修センター
対象者：ハローワークの求職申込者で、介護福祉分野の就職に向け、訓練を希望する者
受講料：無料(ただしテキスト代自己負担です)
募集人員：20名

申込先：住所地のハローワーク
(※平成28年8月17日(水)に長野県長野技術専門学校選考会があります)

問合せ先：長野県高齢者生活協同組合
長野講座担当 026・217・3601

長野県社会福祉協議会委託事業
「福祉のお仕事 復帰ミニ講座」受講生募集

介護の資格は以前に取ったけれど、介護分野へお勤めしていない方、以前にお勤めしていたけれど、また介護への就職を考えている方など、1日のミニ講座で介護分野への復帰を考えるきっかけをつくりませんか?

日程・会場

①平成28年7月23日(土)9時45分～15時40分
篠ノ井市民会館(長野市篠ノ井御新田280番地)
②平成28年7月30日(土)9時45分～15時40分
吉田公民館(長野市吉田3丁目22番41号)

対象者：介護の有資格者で、現在は介護の仕事に就いていない方
ノルテながの内

受講料：無料
講座内容：福祉の仕事について、介護の基本と新しい技術、認知症の理解等
問い合わせ：申込み先
長野県高齢者生活協同組合 北信地域センター
D0026・217・3601

長野高齢協組合員数

(平成28年6月末現在)

全体	3,829人
全北	2,313人
中	750人
東	562人
南	192人
その他	12人

編集後記

熊本大分の地震被害で、わが家に戻れず非難生活を続けている方々にとってこの梅雨の時期、そして暑い夏はどんなにかつらいことでしょうか。この長野に住んでいることが申し訳ないよううにさえ思えます。

東日本大震災もあわせて人びとの暮らしを一日もはやく建て直す意味でも、また日本の将来を間違った方向に向かわせない意味でも、参院選で主権者としての意志を明確に示すことが大切です。(依田)

2016 年度高齢協方針骨子

6月25日に開催された第18回通常総代会で決定された2016年度方針骨子をお知らせします。

社会保障制度の後退や介護保険の改悪が進む中、「住み慣れた地域で安心して暮らし続ける」という願いに応える為に、基本方針は
○在宅生活をとことん支える24時間365日の看取りまでの介護を目指します。
○地域の困り事にとことん応える生活を支援するサービスを創り出します。

一 組織運動分野では一

- 1 地域に即した居場所・集う場づくりをそこに住む組合員や地域の人々と共に作ります。
- 2 年間を通じて平和を守る運動に取組みます。
- 3 憲法改正、戦争ができる国づくり、社会保障の後退が進む中、私たちの声を大きくし、生活者の視点での政治の実現に向けて声をあげていきます。
- 4 フードドライブ（家庭で余った食品を持ち寄り必要とする方々に配る）を中心に生活困窮問題に取り組みます。
- 5 任意団体の高齢協設立から20年になります。20周年記念事業に取り組みます。（「私からの伝言」普及活動、記念誌の発行、

2016 年度数値計画

	東 信	北 信	中 信	南 信	本部系	合 計
事業高(千円)	111,001	394,779	156,070	34,993	25,409	722,252
剰余(千円)	12,247	43,179	11,344	-9,611	-41,271	15,888
組合員拡大	50	200	80	31	0	361
期末組合員数	597	2,432	822	215	11	4,077
増資活動(口)	1,000	5,000	2,100	343	0	8,443
期末出資金(口)	39,650	63,323	17,973	2,100	852	123,898

事業態別計画(単位:千円)

	介護事業	公共事業	配食事業	人材育成	N P O	やすらぎ	供給他
事業高	381,915	172,970	119,110	25,135	21,002	1,520	600
剰余高	59,289	24,824	8,133	-49	-1,351	339	70
原価率	84.5%	85.6%	93.2%	100.2%	106.4%	77.7%	88.3%

剰余金処分について

【高齢者生協】

当期末処分剰余金 4,470,345円
法定準備金に515,000円、福祉事業積立金に2,500,000円を積み立てます。
残金1,455,345円は次期に繰り越します。

レセプション等)
6 様々な活動を通じて仲間づくりを進めます。

一 事業分野では一

- 1 NPOワーカーズコープかがやきを中心に新たな仕事に挑戦します。
- 2 介護分野は小規模多機能型居宅介護事業所を核に、今後の情勢の変化に対応できる事業を作り上げます。
- 3 配食事業は弁当の配食プラスαのサービスを検討すると共に、佐久味工房米ちゃん弁当の事業所拡張の検討に入ります。
- 4 長野市の指定管理各館は契約更新時期となります。現施設の引き続きの指定と新たな獲得を目指します。
- 5 全ての事業所がその地域での福祉拠点になるよう、地域との関係を強化します。

一 管理・運営では一

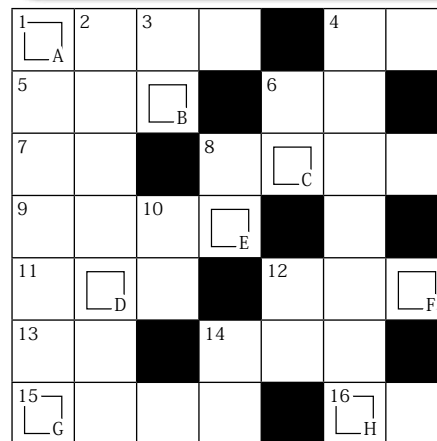
- 1 リスク管理を意識し、組織内の管理・運営体制を整備します。
- 2 赤字事業所0を目指し、財務体質の強化を図ります。
- 3 学びを中心に据え、職員集団の力をあげる取り組みを行います。



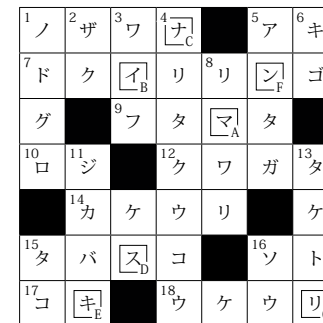
議案採決の様子

前号のクロスワード正解「マイナスキンリ」でした。

正解者：9名 当選者(3名)：藤本さん、石坂さん、羽田さん
おめでとうございます。クオカード500円をお送りします。



〈前号の答え合わせ〉



〈タテのカギ〉

- ①長期間にわたり自宅等にこもり、社会的な活動に参加しない状態が続くこと。
- ②既に結婚している女性のこと
- ③ちょうどよいときに降る雨。しぐれ。
- ④孝徳天皇の皇子。母は小足媛(おたらしひめ)。
- ⑤気質・態度・身なりなどがさっぱりとあかぬけている。
- ⑥二つ以上のものが近寄って、一つになる。
- ⑦もののかず。ものの多少を表す概念。
- ⑧眼の縁にできる腫はれ物。ものもらい。
- ⑨色の名。三原色の一つで、新鮮な血のような色。

〈ヨコのカギ〉

- ①大根を煮るときの下茹で使用。米の〇〇汁
- ②色の名。三原色の一つで晴れた空のような色。
- ③一定期間継続して権利を取得又は喪失する事。〇〇〇〇成立。
- ④ある場所などにはいること。「楽屋〇〇」
- ⑤紫色を帯びた濃い青色。濃い藍色。
- ⑥植物の種子を四季のある時期に蒔く事。
- ⑦書かれた文字の数。この問題の〇〇〇〇は22。
- ⑧役立つようにうまく使うこと。
- ⑨妻と夫。ふうふ。
- ⑩にせもの。まやかしのもの。うそ。
- ⑪牛頭馬頭などの地獄の獄卒の総称。
- ⑫ある言語に対して開発されたソフトを他の言語に対応させること。反語は「国際化」
- ⑬次の時期・期間。「〇〇会長」

ヒント：2代続けて・・・

応募方法

・ヒントから□に文字を入れて、A～Hまでのアルファベットを順番に並べ替えて、言葉を完成させてください。応募いただいた正解者の中から抽選で3名の方にクオカード500円をプレゼントします。
☆答え、氏名、住所、日常の出来事やニュースのご意見・感想などを記入して、郵便、FAX又はメールにてご応募ください。お待ちしております。
宛先：〒381-0024 長野県長野市南長池761-3 長野県高齢者生活協同組合「クロスワード」係
FAX:026-263-2385 メール:kagayakinews@nagano-koureikyoo.jp 締切日：9月3日(土) 必着

【現行の介護保険の仕組みを維持してください！】署名

本高齢者生活協同組合連合会を通じて、被災された熊本県高齢者・障がい者生活協同組合へ届けさせて頂きます。
2015年の介護保険制度改定では利用者負担増、要支援1・2の方々の訪問介護と通所介護の介護保2018年度からは更に給付規制が強化されようとしています。
(要介護1・2の方々の生活援助や通所介護の切り離し、福祉用具や住宅回収も全額自己負担に、利用料原則2割負担など) そこで、少なくとも現状からの後退を防止しようという署名です。短期間の取組みでしたが、555筆の署名が集まりました。ご協力ありがとうございました。

【熊本地震の募金活動のご報告】

熊本地震で被災された方々への募金活動を行いました。全体で134,113円が集まりました。このお金は、日

本高齢者生活協同組合連合会を通じて、被災された熊本県高齢者・障がい者生活協同組合へ届けさせて頂きます。

【「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」に取り組みます。】

「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」に取り組みます。
内容は「被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、全ての国に求めます。私は被爆者の訴えに賛同して署名します。」この署名は国連に提出されます。ぜひ多くの方の署名をお願いします。
取組み期間は7月31日までとなっています。

おもしろクラブの「協同畑」(きょうどうばた)に参加して

「協同畑」は年越し派遣村のニュースがきっかけとなり生まれました。

提唱された組合員の畑を使用しているの作物作りにはじまり、その後東信地域センターの事務所ができてから新たに加わった仲間が提供され現在に至っています。「協同畑」では生活困窮者支援活動の一端を担うべく、玉ねぎやじゃが芋を作っています。作業は毎年春〜秋に行っています。いつも汗だくの仕事の合間におしゃべりに花を咲かせるのも楽しみの一つです。

現在会員は女性だけのため、会員のご主人が耕運機を持参して手伝ってくださったり、時にはたまねぎの苗作りをしてくださったりとさりげない応援に感謝です。

また、私たちの活動に共感してくださる地域の方々の作物の

提供もありがたいことです。

私はこのようなやさしい仲間、地域の方々とともに高齢協の理念に沿い協同畑の作業を少しでも長くつづけられるように思う一方、この活動が過去の思い出話になるような社会の実現の日も早からんことを心から祈らずにはおられません。

(東信地域センターおもしろクラブ 山下 多香子)



共同畑での作業の様子

「わらび採ったぞー！」

美味しかったよ。」

雨がそぼ降る中、研修センターを出発しました。「雨降りなら温泉に入ってゆつくりしようね。」「長靴持ってきた?」「雨合羽、忘れたみたい。」「お迎えに来てくれたロτζジでんべえのご主人に、「今年は山菜の時期が早いけど、まだ大丈夫ですよ。沢山採ってください。」と励まされ、雨女、晴れ女、曇り女入り乱れて野沢温泉村に向かいました。途中、みゆき道の駅に寄り、アスパラガス・さくらんぼ・レタス・そばなどを仕入れ、の花束(とてもきれいで安かったです。)を抱えてバスに乗り込みました。目的地に到着した時には幸運にも雨が止み、暑くもなく最良のコンディションでいざ出陣。お目当てのわらびは、前日まで晴天続きだったためか、大量とはいきませんが満足の収穫でした。

昼食は、山菜懐石。根曲り竹をふんだんに使った料理、食べきれないほどの心のこもった山



山菜懐石

業料理に大満足の参加者でした。日々の食事づくりの参考になったでしょうか? 野沢の真湯(しんゆ)から引いた温泉は、疲れた体と心を癒してくれました。2度入った方もいます。こんな温泉が身近にあれば幸せだと感じながら帰途に就きました。(北信地域センター センター長 鈴木 友子)

洋子さんのゆうゆう介護塾



第7話「意識障害を起す脱水」(南信・今村洋子)

電話の音で目がさめました。時計を見ると夜中の12時です。「こんな夜中に、いたずら電話かしら?」

おそろおそろ電話を取りました。か細い女性の声です。「真夜中にごめんさい。Hです。2時間前から下痢が始まって。今度下痢したら電話をするように言っておいたのを思い出して電話しました。明日は入院になるかもしれません」関節リウマチでヘルパーさんの援助をうけて一人暮らしをしているHさんからでした。「待っていてください。すぐ行きますから」

私は飛び起き着替えて車に乗りました。駅前の自動販売機で、スポーツ飲料水を5缶買いHさん宅に向かいました。

Hさんはグツグツリして寝ています。台所からやかんを持ってきて枕元に置き、スポーツ飲料水を全部やかんへ入れました。「Hさん。一晩中このやかんの水をできるだけ飲んでください。大丈夫ですよ。明日朝まで来ますから。」そう言ってお宅を後にしました。

訪問看護ステーションを開設したばかりの頃の話です。50歳前半のHさんはあちこちの関節が変形して家事が充分に出来ず、食事も思うように取れない状況が続いたため体重が

33キロしかありませんでした。「1年に4、5回は入院するのです。何かの原因で下痢になるといくら水分をとつても意識が薄くなって救急車で病院に運んでもらうのです。病院に着く頃には意識が無くなり、気がつく点滴をしようとするのです。点滴をするとき意識が戻り、3日で退院できるのです。」Hさんはそんなお話をしてくれました。

「点滴をするとき意識が戻る」との話で、Hさんは下痢により水分は勿論、電解質も消失して意識障害が起きるのでは?と思いました。点滴には電解質が入っています。それで今度下痢した時は、スポーツ飲料を勧めてみようと思っていたのです。

翌朝、Hさんのお宅へ行くことと準備していた時です。電話がかかってきました。

元気なHさんの声です。

「おかげ様で元気になりました。看護師さんの言う通り、一晩中やかんの水を飲んでいたら、だんだん回復してきていつもの様に救急車を呼ばなくて済みました。本当に嬉しいです。これから下痢をしたら、このスポーツ飲料水を飲むようにすれば良いですね!」

それは、彼女が下痢で入院するころから、彼女もありませんでした。現在、彼女は体重が10キロほど増えてふっくらとした素敵な女性になり、電動車椅子で短歌の会などに出席するまでに元気になりました。

★ケースから学ぶ

Hさんのように体重33キロしかない栄養不良の方が下痢を起すこと、「重度の脱水」になり水分と一緒に体液に含まれる電解質まで消失します。重度の脱水は腎臓や肝臓の内臓器官のほか、脳細胞にも影響を与え、錯乱や意識障害を引き起こします。

こんな時、水分補給が先決ですが、電解質も同時に補給しなければなりません。

スポーツ飲料には人間の体液に近い電解質が入っています。現在は多くのスポーツ飲料が販売されています。高齢者は喉の渇きを感じることが十分に機能せず、脱水になりやすいため、また嘔下障害などがある方は特に気をつけなければなりません。日頃から水分補給にはスポーツ飲料もしくは麦茶や少し塩を入れた水分を取ることをお勧めします。

理事会たより

5月28日に行われた生協理事会の報告を行います。

- 各地域で行われた総代・組合員の集いの意見集約を基に、第18回通常総代会の議案並びに剰余金処分案を決定しました。
- 熊本地震について募金活動を行ってまいりましたが、集まった義捐金について日本高齢者生活協同組合連合会を通じて、熊本県高齢協を支援することを確認しました。
- 以下の署名活動を行う事を確認しました。
 - 福祉用具国民会議呼びかけの「現行の介護保険の仕組みを維持してください」

請願署名(回収期限 6月14日)

- 長野県原爆被害者の会呼びかけの「核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶよう求める」請願署名(回収期限 7月31日)
- NPO法人フードバンク信州への団体加盟を決定しました。
- 2016年4月度事業・活動状況を確認しました。組合員動態 加入17名・脱退3名・純増14名 組合員数は3792 事業高は61,819千円(予算比101%)、事業剰余6,457千円(予算比1123%)と順調に推移しています。

私の歩んだ道 その1

長野県高齢者生活協同組合
理事長 市川 英彦

私の小さな戦争体験

私が6才の時太平洋戦争が始まりました。村のお兄ちゃん達が「お国の為に行きます。天皇陛下に命を捧げて来ます」と、挨拶して出征して行きました。私たちは子供心にお国とは何かを考え、「お国とはふるさとのこと、このふるさとに命を捧げる、これぞ男の生き道だ」と納得しました。

昭和20年7月、突如漆黒の空から焼夷弾が降りかかって来ました。私の生家は中山道69次の一つ河渡宿で、長良川の西岸の街道に並ぶ約60戸の集落でした。家々はたちまち火につつまれ、女子供は集落を囲む田んぼの道へ逃げました。しかし田植を終えたばかりの田は火の海でした。恐怖の一夜を明かし、焼けあととなった家へ帰ると、私が可愛がっていた猫が足元にすり寄ってきました。

20年8月上旬、小学生5名で長良川の堤防の道を下校していました。ふと気がつくくと左上空に艦載機がせまっております、近づいてきた飛行機の操縦士と風防眼鏡越しに目が合いました。あわてて土手へ飛び退き、背の低い竹藪から目をこらすと、道に機銃掃射による一列の土けむり、その向こうの川面がかげろうにゆれていました。

小学校3年生以上は学校での授業はなく、出征した農家の手伝いばかりでした。麦踏み、麦刈り、田起こし、お田植、田の草取り、さつまいも作り、草取り、蚕の桑くれ、稲刈り、脱穀、いなごとり、落ち穂ひろい、桑の枝の皮むき等々あらゆる農作業を行っていました。

悲しかったのは昼のべんとう。水つぼい麦ばかりのごはんは持ち歩いているうちにべんとう箱の片側に寄り、半分がすぎ間でした。

「あたらしい憲法のはなし」で学びました。昭和23年、中学一年で憲法を学びました。教科書は前年に文部省から発行された「あたらしい憲法のはなし」でした。50歳に近い社会科のS先生が、「あたらしい憲法で、日本は二度と戦争しないこ

とに決めた。諸君は天皇陛下万歳と叫んで死ななくともよくなつた。自分の思いのまま自由に人生を歩むことが出来るのだ。」と涙を浮かべ、声をつまらせて教えて下さった。その時の教室の情景が今も鮮明に目に浮かびます。

先生は歌人でもあり、昭和25年1月の宮中歌会初めの召人に選ばれました。お題は「若草」^{たかほら}。雪消えて 若草もゆる高原に牛を放つは 幾月振りか

のどかで穏やかな山村の、春の喜びの風景が目につかびます。そこには先生の憲法を讀める気持ちが届められています。先生は全校生徒に歌会の様子を話して下さいました。その終わりに、「当日は寒かったせいとか、天皇の鼻の下に水つ漬が光っていた」とおっしゃいました。戦中なら大変な不敬罪でしょう。天皇に対する先生の複雑な気持ちも吐露されたのでした。



日頃の市川理事長 若かりし市川理事長

★今号から市川英彦理事長の「私の歩んだ道」を連載致します。

転ばぬ先の杖

「知っておきたい「成年後見制度」その1」

成年後見制度とは、認知症や知的・精神障害などで判断能力が十分になつた人の社会生活を支援する人（後見人といいます）を家庭裁判所で定めて、普通の生活を送れるように支援する制度です。

例えば認知症に陥つたような人が高額物件を購入するような場合、本人に一方的に不利な内容の契約を結んでしまう可能性があります。

そんな場合、成年後見制度を利用して支援する人を決めれば、本人に代わり契約を公正に行うことができ、安全に契約を行うことが可能になります。

また、一人暮らしの高齢者が訪問販売で悪質な商品を購入させられてしまったというような場合、成年後見制度で支援する人が定められていると、購入したことを取り消して、お金を取り戻すことが可能です。

高齢者を支える制度として介護保険制度がありますが、成年後見制度は判断能力の不十分さを支援する制度です。また仮に成年後見人が選任されても買い物など日常生活に必要な範囲の行為は本人が自由に行うことができます。

中信

「生きがい作り倶楽部」活動、第一歩の始まり

お友達づくりや組合員の輪を広げるために、昨年から立ち上げが課題だった「生きがい作り倶楽部」、その具体化として北信・東信センターで好評なクラフトテープを使った「籠づくり」講習会を6月7日（火曜日）、12名の参加者で開催する事ができました。

組合員向けには、かがやきニュースでのお知らせとお誘いの声かけ、広く多くの方に参加をしていただくために、タウン誌にも掲載をお願いしました。（タウン誌からの参加は6名）

手元に集中、真剣そのもの

皆さん初心者にも関わらず大胆に、これからの季節に持って出掛けた籠バッグにチャレンジです。北信地域センターから応援いただいた講師の丁寧なご指導で、初めの方はあちこちで聞かえていた話し声や笑い声も、手がこんだ作業が進むにつれ次第に聞こえなくなり、初めてのクラフトテープの扱いに四苦八苦しながら手元に集中、真剣そのものでした。作り始めて時間が進む中で、軽くて素敵なバッグが出来上がり、他の方

の作品と見比べながら、出来栄えに自己満足。

講師に持参いただいた複数の作品を見て、次回は、「これを作りたいなあ」という声を皆さんから聞く事ができ、次回開催の際にまたお知らせする約束もしました。

達成感に酔いしれて

次第にかたちになると意外に手軽に出来上がり、達成感を味わい、指先を使い脳活性化するしやべりする事で交流ができ、やりがい。生きがいにつながり、組合員の輪を広げる事に つながっていき活動への大きな一歩となりました。更に参加の輪が広がる事で、組合員でない方にも高齢者生協を知っていただく良い機会になってゆくことを願います。



籠づくりの様子

次回の開催と、定期の開催に向け活動開始です。（中信地域センター 新井登代子）

南信

あつて良かった！ みんなの家下條

「これまでの活動を振り返って」

下條村は人口約4千人、高齢化率が30%を超える下伊那郡のほぼ中央に位置する静かな山村です。7割が山林を占め、平坦な場所が少ないため、村の主産品は果実やソバです。そんな下條村では、早くから少子化対策や住民参加型の地域づくりを進めており、出生率も村の財政も、全国的トップクラス、今では「奇跡の村」として全国的で脚光をあびています。

そんな下條村に「みんなの家下條」を開設して2年半。私たちは単に介護サービスを提供するイチ事業者という存在では無く、下條村の仲間員として認知され、お役に立てる存在でありたいとの思いで活動を続けてきました。

ただ、開設当初は「高齢協って何？」「何するところ？」「みんなの家って宗教活動するところ見たいよ」、そんな声も聞かれました。認知度はほぼゼロでした。そんな状況を改善するため、私たちは「待ちの姿勢」では無く、「こちらから出て行く姿勢」で活動を続け

てきました。

そして、地域との関係づくりを深めるため、積極的に村の活動や行事に参加していただきます。毎年開催される、「下條村文化祭」「健康を考えるつどい」「しもじよつ子まつり」「道の駅感謝祭」「下條村北又合同祭」には出店や展示で参加し、「下伊那南部ケア会議」「家族介護教室」「防災学習会」では、地域の方々と共に村づくりを語ったり、ときに講師役をしたりと連携を図っています。



震災支援Tシャツ販売の様子

まだまだ取り組み半ば活動ですが、「高齢協があつて良かった」「みんなの家下條があつて良かった」、一人でも多くの方々にそう言っていただけ様にもこれからも活動を続けていきます。（南信地域センター 前島修史）

NPO法人ワーカーズコープかがやきの活動紹介

高齢協では「福祉・生きがい・仕事おこし」の3本の柱を基に活動と事業を進めてきました。NPO法人ワーカーズコープかがやきは、消費生活協同組合としては馴染まない事業分野、主に「仕事おこし」を中心に行うために、2004年3月に発足、2006年9月にNPO法人の認可を取り活動を行って来ました。

現在の活動は、下記の様に多岐に渡ります。

協同事業	大学生協や企業からの施設管理等の依頼を受けて行う。委託請負事業（信州大学・インテージ）
販売事業	地産地消と第6次産業を目指した販売事業（北部農民組合さんと協働での虹の市）
生活総合支援	介護保険では対応できない、庭木の剪定・草取り・消毒・ごみ出し・雪かきなどの生活支援活動
介護保険事業	小規模多機能型居宅介護事業所運営（たわわ善光寺下・四季のベンチ）
配食事業	佐久味工房米ちゃん弁当



長野中央病院での販売の様子



事業高も1億8,900万円と大きな規模となっています。私たちの理念である「元気な高齢者はより元気に、人と地域のお役に立とう」を実現する上で、定年後の仕事おこしは、①生きがいと健康づくりの場 ②年金+αの収入を得る場として、とても重要な活動であると考えています。使いにくくなるばかりの介護保険制度。「住み慣れた地域で安心して暮らし続けたい」というささやかな願いを叶えるためには、多くの困り事やニーズが生まれています。一方、団塊の世代と言われる方々が定年を迎え、地域に戻ってきています。知識と経験を持つ人々が力を合わせて地域に必要な仕事を起こしていく。新たな地域のつながりを創り出して行くことが出来ると確信します。

2016年度は新たな「仕事おこし」を重点に取り組みます。

- 協同事業は新たな提携先を拡大します。
- 空家管理サービスを開始します。（松本：6月～、長野：10月～）
- 遺品整理サービスを開始します。（長野：10月～）
- 上記以外に事業化を検討しているのは買物弱者対策、福祉有償移送サービス等です。

「こんな困り事がある」「こんなサービスが欲しい」等の要望をお寄せ下さい。直ぐに事業化にはならないかもしれませんが、ひとつひとつ具体化に向け検討して行きます。

私たちと共に活動して頂ける生活総合支援の担い手さんを募集しています。

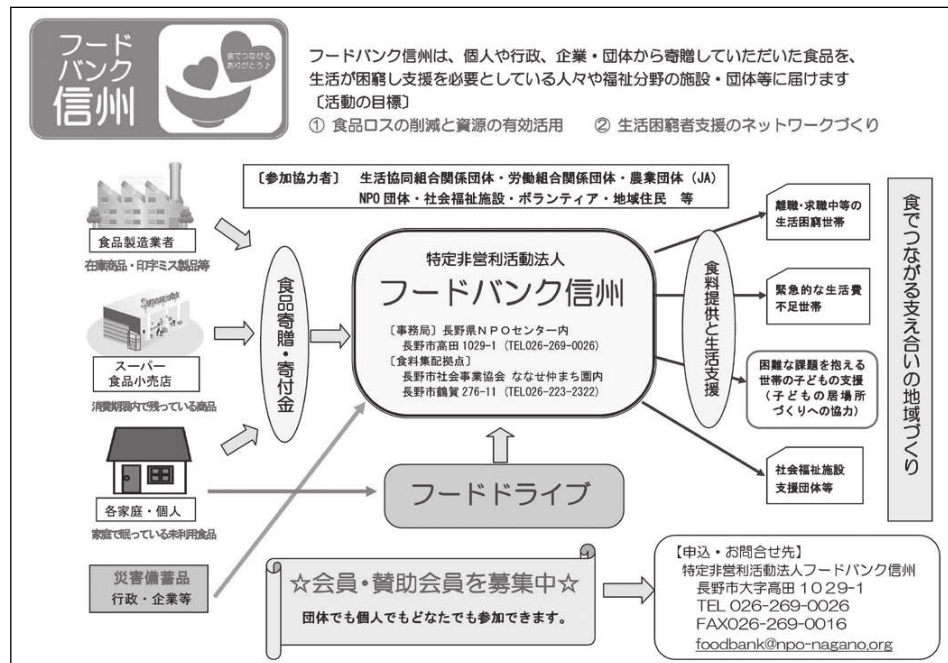
「チョット興味があるな」という方は下記までお電話を

長野地区：026-263-2386 担当：長坂平和
松本地区：0263-50-8439 担当：代田登

フードバンクの取り組み

長野高齢協は5月28日理事会で「NPO法人フードバンク信州」への加盟を決めました。フードバンクとは、個人や行政、企業・団体から寄贈した食品を、生活が困窮し支援を必要としている人々や福祉分野の施設・団体に届ける活動です。

以下、フードバンク信州の仕組みを紹介します。



東信地域センターの取り組み

フードバンクへ仲間入り

私たち協同畑は、リーマンショック後の年越し派遣村にショックを受けました。今度は自分の子どもが首を切られるかもと、他人事ではいられませんでした。空いている畑で、じゃが芋とたまねぎを作り始め7年目になります。出来た野菜は信濃のフードバンク山谷（やま9農場）に届け、最初は、伊那で仕事を失ったブラジルの方たちにとどけられました。彼らが国へ帰った後は、路上生活者のために炊き出しをしている団体、薬物依存から社会復帰を目指す山梨ダルク母子支援施設等々へ届けられています。

毎年11月には提供する側、される側が一堂に集まって収穫祭が開かれます。セーフティネットからもれてぎりぎりの生活をしている実態を見聞きし、この国の福祉の貧しさを知りました。

白田に東信地域センターができた4年前からは、周りに働きかけたこともあり、野菜や米がセンターに集まるようになりました。同じ敷地内にある小規模多機能型居宅介護施設「四季のベンチ」が年中無休で、山谷農場への受け渡しが容易になりました。センターがフードバンクへの入り口としての役割を担うようになり拡がりを感じます。（東信地域センター 協同畑 羽毛田多恵子）

北信地域センターの取り組み

生活困窮者への取り組み

8月より各事業所が持ち込み窓口として、フードドライブに取り組みます。各事業所がスタッフや利用者に呼びかけて家庭で食べきれない食品（保存のきく物のみですが）を持参いただきます。毎月5日をめどに北信地域センター本部に集中してフードバンク信州の事務局に届ける予定でいます。どの程度集まるかわかりませんが、一過性に終わらずに継続できるように呼びかけていきます。また、カフェ俱樂部などでの「〇〇食堂」開催も検討していきたいと思っています。